

味覚障害の患者さんへ 美味しく食べられる食事の工夫

東京聖米大学 健康栄養学部
管理栄養学科 准教授

宮内 眞弓先生



味覚障害が起こる主な原因

■ 抗がん剤の副作用

舌にある味覚を感じる味蕾(みらい)細胞が、抗がん剤によって障害されたり、抗がん剤と亜鉛のキレートによって亜鉛が不足し、味覚障害が起こります。

また、口腔内が乾燥しやすくなることも原因の1つです。



■ 放射線の照射

放射線の照射部位によっては唾液が出にくくなり、口腔内が乾燥して味覚障害が起こることがあります。

■ 加齢

加齢に伴い、味覚の感じ方が弱まったり、唾液が出にくくなるといった身体の変化が起こります。

味覚障害を起こしやすい薬と発症時期

抗がん剤治療・放射線治療ともに、治療開始数日から数週間ぐらいに味覚障害の症状が出やすいとされています。そして、多くの方は、治療を終えると味蕾が再生され、味覚が戻ります。

味覚障害を起こしやすい抗がん剤の例

- | | |
|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> プラチナ製剤 (オキサリプラチン、カルボプラチンなど) | <input checked="" type="checkbox"/> タキサン系の抗がん剤 (パクリタキセル、ドセタキセルなど) |
| <input checked="" type="checkbox"/> フッ化ピリミジン製剤 (S-1など) | <input checked="" type="checkbox"/> 分子標的薬 |